

「有り難きもの」税金

日本大学中学校3年 鈴木 志歩

「当たり前」の対義語を知っていますか。「当たり前」の対義語は「有り難きもの」です。病院や学校に行けたり、道を歩けたりするのは「当たり前」ではなく、「有り難きもの」なのです。なぜ、病院や学校に行けたり道を歩けたりするのか。それには、税金が関係しているのです。税金に沢山支えられているからこそ、健康で苦のない生活が送れ、困っている人を助けるためには税金は欠かせないものだと思います。実際、私も税金に助けられ、税金の大切さを強く実感した出来事があります。

私が五年生の頃、夏休みの工作教室に参加しました。場所は家から少し遠い所だったので母と一緒に自転車で行きました。工作が大好きだったので無我夢中になり工作をしました。工作教室が終わり、家に帰ろうとした時急に気分が悪くなり、目が見えなくなったり体に力が入らず立っていることが困難になったりしました。異変に気づいた母がすぐに救急車を呼んでくれました。その時の、記憶はあまりないですが、すぐに救急隊員が来てくれたのは今でも覚えています。そして、歩けない私を担架に乗せて救急車に乗せてくれました。救急車は一度も止まることなく大きなサイレンをならして病院まで送ってくれました。病院で処置をして無事に家まで帰ることができました。救急車はお金がかかりませんが、救急車のガソリン代もきちんと整備された道路を使えたことも「当たり前」に思えますが、「当たり前」ではないのです。もし、税金がなかったら救急車もない、救急車がなかったら今、健康でいられなかったかもしれません。このような、経験があったからこそ税金の大切さを知れたし、命を繋ぐ素晴らしいものだという事をみんなにも伝えていきたいと思いました。

今は、税金に支えられ、税金を使う身ですが大人になったら税金をきちんと納められる人になりたいです。税金を払うということをお金が取られて嫌だと思える人もいます。私も税金には悪いイメージしかありませんでした。けれど、今回、税について考える機会があり「なぜ、税金を払わなければいけないのか」や「何に使われているのか」を調べたことによって税に対する考えが百八十度変わりました。自分のお金が全て自分のために使われなくても、自分のお金で困っている人を助けられ笑顔にすることができたら良いなと思います。国民全員が税を払うことに良いイメージを持ち笑顔で納税できるようになってほしいです。

今は、消費税くらいしか納税していない私たちですが、税金のおかげで通える学校で、色々なことを学び、立派な大人になり、社会に貢献していきたいです。「有り難きもの」を忘れることなく税金に感謝の気持ちを持ち「有り難き生活」が一生続くような国を作っていきたいです。

